

Istanbul Weekly vol.5-no.22

イスタンブール ウィークリー

発行：在イスタンブール日本国総領事館 発行日：2016年6月17日（金）

— 今週のポイント —

- 政治**：世論調査結果：AKPの支持率は47.6%。
エルドアン大統領、プーチン大統領に書簡、関係改善を模索。
- 経済**：第1四半期のGDP成長率、4.8%。
トルコへの民間のインフラ投資額は世界一。
- 治安**：ISILがトルコの国会議員やジャーナリストの暗殺を計画。
愛国主義団体が同性愛擁護団体主催パレード阻止を表明。
1984年以降初めてPKK幹部の拘束を指示。
- 軍事**：キリス県におけるシリア国境防衛を増強へ。
- 社会**：公的機関等のラマザン明けの休暇を9日間に延長。
ラマザン中にチャムルジャ・モスクがオープン予定。

政治

【内政】

●世論調査結果：AKPの支持率は47.6%

ユーラシア世論調査センター（AKAM）が発表した世論調査結果によれば、最新の政党支持率は、AKP47.6%、CHP25.33%、MHP11.16%、HDP11.13%の結果となった。国会議員特権の剥奪で野党議員が公正に裁かれるかとの質問に56%が公正な裁判にはならないと回答。また、デミルタシュ HDP 共同党首が逮捕された場合、HDPの支持率は14.05%に上昇するとの結果が出た。（6月10日付C紙6面他）

●アンカラ大学教授の断食関連発言が物議を醸す

13日、国営放送TRTのラマダン関連番組に生出演したアシュカル・アンカラ大学神学部教授が「断食を行わないものは動物だ」と発言したことが物議を醸している。TRTは番組中で同氏の発言について謝罪した他、宗務庁は「イスラムの精神にはそぐわない発言だ」と批判した。また、ユルドゥルム首相も同発言を批判した。（6月14日付H紙18面他）

●新憲法起草に関する大統領顧問発言

ウチュム大統領首席顧問は、Bloomberg newsのインタビューに答え、トルコとして2016年中は新憲法の起草に注力し、12月を目途に国会に提出したいと述べた。また同顧問は、新憲法では特定のイデオロギーに言及しないとしつつ、アタテュルク初代大統領を冒頭部分で「トルコ共和国創設の指導者」として明記すると述べた。（6月15日付M紙18面）

【外交】

●エルドアン大統領、プーチン大統領に書簡、関係改善を模索

エルドアン大統領は、6月12日「ロシアの日」に合わせ、プーチン大統領に書簡を發出。大統領府筋によると、同書簡では、ロシア連邦の記念日（ナショナルデー）を祝福するとともに、トルコ・ロシア間の関係が将来的に本来の水準に到達することを望むと記された。また、ユルドゥルム首相も同様に、メドヴェージェフ首相に対して書簡を發出した。（6月15日付M紙版）

●エルドアン大統領、オバマ大統領に電話し、弔意を伝達
エルドアン首相は15日、先にフロリダで発生した銃乱射テロ事件を受けて、オバマ大統領に電話し、弔意を伝えた。エルドアン大統領は、人間性に対する最も大きな犯罪がテロであり、平和的な宗教であるイスラムとは相容れない行為であると述べた。同電話会談では、シリア問題等の中東の諸問題について今後も協力を深めていくことが最確認された。（6月16日付M紙18面）

●チャヴシュオール外相、ミャンマー、スリランカを訪問
チャヴシュオール外相は、12日～14日ミャンマーを訪問、イスラム教徒の住むアラカン地域を訪問し、4千人を対象に断食明けの食事会（イフタール）を開催した。また、TIKA（トルコ国際協力調整庁）が設立した孤児院や学校を訪問した。また、15日にはスリランカを訪問し、シリセーナ大統領と会談、二国間関係を中心に協議した。同国でもTIKAが主導した「トルコ・スリランカ友好村」を訪問した。（6月16日付M紙インターネット版他）

経済

【マクロ経済】

●1-5月期の車両生産台数、9%増加

自動車産業輸出協会によると、今年1-5月期の車両（乗用

車、軽商業車、トラクター)の生産台数は、前年同期比9%増加し59万4000台となり、2006年以來の最高の数を記録した。うち、乗用車は、同13%増加し35万9000台。軽トラックや他の車両を含む車両販売台数は、同2%減少し35万7000台。(6月10日付HDN紙11面)

●第1四半期のGDP成長率、4.8%

統計庁の発表によると、第1四半期のGDP成長率は、市場予測を上回る4.8%。国内消費及び政府の支出が成長率の伸びに寄与した。アーバル財務相は、世界の財政市場の不安定さや増加する地域の緊張、貿易の問題にも関わらずトルコ経済は成長を遂げていると述べつつ、今後は経済成長パフォーマンスを改善し、特に投資を支援するために必要な対策を講じるとした。(6月10日付AAインターネット版)

●4月の経常赤字、縮小

4月の経常赤字は、前年同月比9億ドル縮小し29.5億ドル。過去12か月間の経常赤字は285億8000万ドルに減少した。(6月10日付AAインターネット版)

●5月は37億ドルの財政黒字

15日、アーバル財務相は、5月は37億リラ(12.6億ドル)の財政黒字であったと発表。1-5月では91億リラ(31億ドル)の財政黒字となった。(6月15日付AAインターネット版)

●3月の失業率、わずかに減少

3月の失業率は、前年同月の10.6%から減少し10.1%。対前月比では0.8ポイント低下した。15-24歳の若年者の失業率は前年同月比1.6%減少し17%。(6月15日付AAインターネット版他)

【経済政策】

●政府、投資促進施策を検討

13日、ジャンクリ副首相は、外国からの投資を促進すべく、投資家向けの包括的なパッケージ案の一部を明らかにした。パッケージ案には印紙税や手数料等の免除をはじめ、一部外国人労働者に対して長期間の労働許可を与えるための要件の緩和や、シリア難民に対する就労条件緩和等外国人労働者の労働条件改善が含まれる。(6月14日付HDN紙10面他)

●エルドアン大統領の経済顧問、金利引き下げに期待

14日、エルドアン大統領の首席経済顧問であるゲディクリ氏は、中央銀行の徐々に金利を引き下げる方針を歓迎するとともに、今月も金利を引き下げるだろうと述べた。同氏はまた、年間インフレ率は6-6.5%となる見込みであり、現状ではコアインフレ率も下落傾向であるため、インフレ圧力はないと述べた。(6月16日付HDN紙10面)

【企業等の動き】

●アジュバーデム病院グループ、ヨーロッパに事業拡大の方針

アジュバーデム病院グループは、セルビアやルーマニアへの投資を検討中。今後5年以内に2桁台の成長を目標としている。同グループは、イラク及びマケドニアにそれぞれ1病院、トルコ国内に16病院と13のクリニックを持つ。最近ではブルガリア最大の病院グループ・トクダに100%出資。他方で、ロシアへの病院建設計画は、トルコ・ロシア間の危機的外交関係を受けて中止している。(6月10日付HDN紙10面)

●トルコへの民間のインフラ投資額は世界一

13日の世界銀行の発表によると、2015年の世界の民間のインフラ投資額前年同様堅調で1116億ドル。国別には、トルコへの投資が計447億ドルで1位。イスタンブールの新空港プロジェクト(356億ドル)及びゲブゼ-イズミル間の自動車道(64億ドル)の超大型案件が、世界の投資額

の40%を占めた。

(参考URL:

<http://ppi.worldbank.org/~media/GIAWB/PPI/Document/s/Global-Notes/Global2015-PPI-Update.pdf>)

(6月15日付HDN紙10面)

【その他】

●1-5月の乗客数2500万人=ターキッシュ・エアラインズ
ターキッシュ・エアラインズの1-5月の乗客数は、前年同期比7.8%増加し2500万人。座席利用率は、同3.6%減少し73.8%であった。国内線の利用者数は同10.5%増加し1090万人で、国際線利用者数は同5.8%減少し1410万人。国際線乗り継ぎの利用客は同20.4%増の810万人。(6月15日付HDN紙10面)

●シリア人、トルコ経済に12億リラをもたらす

銀行調整監視機構によると、2015年にシリア人がトルコの銀行に入金した金額は、約12億リラ。2012年の3億1120万リラから大幅に増加している。アナドル通信のアナリスト・メミシュ氏は、シリアの内戦初期にトルコにきた裕福なシリア人が一定の資金を持ち込み、不動産投資を行っているほか、一部のシリア人はレストラン、食料品店等の食品部門にも進出していると述べた。(6月15日付DAILY SABAH紙インターネット版)

治安

●アルカイダメンバーの容疑者26名に対する裁判が始まる

(1)9日、アンカラ検察庁における5年にわたる捜査を終え、アルカイダメンバーの容疑者26名に対する裁判が始まった。アンカラのアルカイダ細胞は、シリアに送る戦闘員を勧誘していた他、コーラン教室やモスク、小売商から資金を集めていた。(6月10日付HDN紙4面)

(2)13日、裁判の論告において、オズハン・ギョズレメジオール容疑者がシリアにおけるISILの人事と資材運搬を管理していたこと、更に、電話の通話記録から、トルコのイスラム系人道支援団体IHHを利用するかもしれない旨発言していたこと等が述べられた。(6月14日付C紙インターネット版)

●過去325日間で7,600名のPKKテロリストを殺害

(1)参謀本部によれば、2015年7月20日(シャンルウルファ県スルチでの自爆テロ発生)以降、これまでに行われた作戦で計7,600名のPKKテロリストを殺害した。内訳は、トルコで4,600名、北イラクで3,000名となっている。(6月10日付HT紙15面)

(2)15日、エルドアン大統領はマルディン県でPKKとの戦いを続ける第70武装歩兵旅団本部を訪問し、PKKとの戦いはほぼ終了に近づいているが、最終勝利を確実にするにはやるべきことが残されていると激励した。(6月16日付HDN紙1面)

●ISILメンバーがノートブック型PC爆弾を製造

5月19日にガジアンテップの隠れ家を強制捜査した際に自爆死したISILのドウルマズ・グループの首領ユヌス・ドウルマズに関する捜査の結果、ノートブック型PCに爆弾を仕込もうとしていたことが判明した。(6月10日付HT紙14面)



(写真は6月10日付H紙インターネット版から)

●PKKがマルディンでの攻撃について犯行声明

9日にマルディン県ミディヤット市警察本部前で発生した車両自爆テロ事件についてPKKが犯行声明を発売、自爆犯はディロク・アームドであるが、ターゲットは警察署であって市民ではないと言及。(6月10日付C紙11面)

●イスティクルル通りに5箇所の派出所を設置

イスタンブール県警は、バイオール区イスティクルル通りに24時間体制の派出所5つを設置した。派出所では顔認証システムを導入予定とのこと。(6月10日付C紙11面)



(写真は6月9日付C紙インターネット版から)

●イスタンブールで5千名の警官による治安作戦

9日、イスタンブール県警は、5千名の警官を動員し、市内39郡の129箇所で治安作戦を実施した結果、次のとおり。

- ・16,355名を取り調べ、78名を逮捕
- ・3,825台の車両を取り調べ、82台が不適合車として摘発
- ・358件の店に立ち入り、20件の店に罰金
- ・291gの薬物を押収
- ・ショットガン1丁、ピストル10丁、カートリッジ銃6丁を押収

・計155,818リラの罰金

・犯罪関連物の所有により18名を拘束

(6月10日付M紙インターネット版)

●イスタンブール市ペンディッキ区で爆発、1人負傷

10日午後10時頃、イスタンブール市ペンディッキ区において、手製爆弾が2度にわたって爆発した。現場近くで見つかった血のついた袋の中から不発の手製爆弾2個が発見された。爆弾を運んでいる途中に爆発したと見られ、容疑者5名が拘束された。(6月11日付C紙インターネット版)

●イスタンブール市エセンユルト区のレストランで爆発

13日午前1時45分頃、イスタンブール市エセンユルト区

エルズルムコングレ通りのレストランに手製爆弾が投てきされ、レストランに物的被害が発生した。人的被害はなかった。(6月13日付C紙インターネット版)

●イスタンブール市ファーティヒ区で手榴弾を発見

13日午前10時45分頃、イスタンブール市ファーティヒ区ヴェズネジレルで7日に発生した車両自爆テロ発生現場近くに放置された不審物の中から手榴弾が発見された。(6月13日付C紙インターネット版)

●連続殺人鬼がイズミル市で捕まる

12日、ロシア人を含む3名の殺人容疑で国際指名手配されていたトルコ人の連続殺人鬼が、イズミル市のミニバスに乗っていたところを捕まった。警察によれば、5月31日以降イズミル市ギュミュルドゥル近郊の山岳部に隠れており、最近ではチェシメにも潜伏していたとのことである。(6月13日付HDN紙2面ほか)



(写真は6月13日付H紙インターネット版から)

●トルコ東部で発生したPKKによる車両爆弾テロにより9名が負傷

13日、トゥンジェリ県オヴァジュック市で車両爆弾テロがあり、9名が負傷した。監視カメラによれば、PKK戦闘員が爆弾を積んだ車両を爆破させたと思われる。また、ヴァン県イペッキョル地区においても不審な車両を止めようとした警察とPKKの間で衝突があり、警官1名が負傷、PKK戦闘員3名が死亡した。(6月14日HDN紙3面)

●イスタンブールでMLKPに対する一斉オペレーション

13日、イスタンブールの9地区24箇所でMLKP(マルクス・レーニン主義共産党)に対する一斉オペレーションが行われ、20人余りの容疑者が拘束された。(6月14日付M紙インターネット版)

●トルコ治安当局、4年前にアンカラに滞在していたISIL司令官を見逃す

2015年のアンカラ駅、スルチ、ディヤルバクル、スルタンアフメット広場等でのテロを指示したイルハーミ・バル(当時、ハタイ県においてアルカイダのメンバーとして活動していたとされ、後にISILに参加し国境司令官となる)は、2012年頃から警察に尾行されていたことが判明した。バルは、2012年3月21日にアンカラのバスターミナルに到着した際、アンカラ支部のメンバーに迎えられ、市内の本屋で会合を行ったほか、本年1月にアンカラでの新年祝賀を狙ったテロ未遂容疑で逮捕されたムーサ・ジャンヨズの親戚が営むマルテペ区のお店に行った後にアンカラを悠々と去ったことなどが、当時の警察による尾行記録から明らかとなった。イブラヒム・バルは、その後、警察に拘束され、釈放された後、シリアに逃亡したとされ、警察から400万リラの懸賞金がかけて指名手配されている。(6月14日付C紙インターネット版)



(写真は6月14日付C紙インターネット版から)

●新聞紙編集長襲撃した主犯者に対し懲役12年を求刑

14日、検察庁の発表によれば、5月6日にイスタンブールのチャーラヤン裁判所前で発生したジウムヒュリエット紙編集長襲撃の主犯者ムラット・シャーヒンに対し懲役12年10ヶ月を求刑、また、これを幫助した別の2名については傷害と武器威嚇により懲役6年6ヶ月を求刑した。(6月15日付HDN紙4面)

●ISIL がトルコの国会議員やジャーナリストの暗殺を計画

14日のイエニ・シャファック紙によれば、キリス県でトルコに入国したところを当局に拘束されたISIL戦闘員2名が持っていたリストから、トルコの国会議員やジャーナリストの暗殺を計画していたことが判明した。ターゲットとされた議員などのリストのほか、サイレンサー付き銃2丁なども押収された。(6月15日付HDN紙4面)

●ヴァン県で道路に設置された爆弾により警官6名が負傷

14日、ヴァン県ゲワシュ区で警察の防弾車が、道路に設置された爆弾が走行中に爆発したことにより、重傷者2名を含む6名が負傷した。(6月15日付C紙11面)

●1984年以降初めて PKK 幹部の拘束を指示

PKK は、そのテロ活動の舞台を山岳部から都市部に移してきたが、多くの県や地区において当局による掃討作戦に敗れ、いよいよ最終段階に来ている状況にある。治安当局は、1984年以降初めて、ムラット・カラユラン、ジェミル・バユック、そしてドウラン・カルカンといった山岳部に潜伏していると思われる PKK 幹部を拘束するよう指示を出した。(6月15日付Haber merkezi 紙インターネット版)

●ISIL メンバー4名の被告に対し、合計で終身刑10回の判決

15日、2014年3月20日にハタイ県からタクシーでイスタンブールに向かっていったISILメンバーが、ニーデ県内のチェックポイントで治安当局に制止された後に撃ち合いとなり、治安関係者3名が死亡、8名が負傷した事件の裁判で、1名が終身刑4回と懲役179年半及び22万5千TLの罰金、1名が終身刑5回と懲役174年半及び22万5千TLの罰金、1人に終身刑と懲役124年及び22万5千TLの罰金、1人に懲役13年9ヶ月の判決が下った。(6月15日付C紙インターネット版)



(写真は6月15日付Sozcu紙インターネット版から)

●愛国主義団体が同性愛者擁護団体主催パレード阻止を表明

(1) 14日、愛国団体アルプエレン (オスマン帝国愛国主義系) が記者会見を開き、26日にタクシム広場 (イステイクラル通り) で同性愛者擁護団体LGBTIが主催するパレードへの嫌悪を表明するとともに阻止する意思を表明。また、アナトリア・ムスリム青年同盟 (MAG) も同様に本件パレードを威嚇する声明を発表。

(2) 一方、米国総領事館はLGBTのシンボルである虹色の旗を同館に掲げ、6月12日に米国オランダ州の同性愛者が集まるクラブで発生したテロの犠牲者を追悼するとともに、ツイッターで平等と尊厳を守るあらゆる人々との連帯を示すと述べた。(6月16日付HDN紙2面)

(3) これらの一連の動きなどを受け、イスタンブール市当局は17日、同パレードを安全上の理由から許可しない旨表明した。(6月17日付AFP)



(写真は6月14日付HT紙インターネット版から)

軍事

●シリア民主軍、ISILの支配下にあるマンビジに迫る

米国の支援を受けるシリア民主軍 (YPG とアラブ系反政府勢力等の連合軍) は、ISILの要衝地であるマンビジに続く最後の道路をほぼ制圧しつつある。YPG はシリア北東部の多くの地域を既に掌握しているが、一方で、ユーフラテス川以西への前進は、トルコの強い反対により押さえられている。(6月10日付HDN紙1面)

●シリア北部のISILに対し陸と空から攻撃

トルコ軍の発表によると、12日にシリア北部 Tughal においてトルコ国内に向けてカチューシャ砲による攻撃準備中であった ISIL に対し、トルコ軍は地上と空から攻撃を行い、ISIL 戦闘員 5 名を殺害、ロケット弾を積んでいた車両や関連の建物を破壊した。(6月13日付Yenisafak紙インターネット版)

●アルメニア虐殺決議に異議はあるものの、基地内の施設増設を独に許可

(1) 最近のドイツ連邦議会によるアルメニア虐殺決議を巡って緊張関係にあるものの、トルコとドイツ両国は、インジルリッキ基地内におけるドイツ軍兵の宿舎建設について合意に至った。(6月13日付HDN紙1面)

(2) 13日にトルコとドイツ双方の国防大臣が兵舎建設について概ね合意に達したとのドイツメディアの報道に対し、ジャンクリ副首相は、ドイツから同基地内における施設増設の要望はあったものの、最終決定には達していない

と述べた。(6月14日付HDN紙9面)

●トルコ政府、シリアのイドリブに対する空爆を非難

12日にシリア北部でアルカイダが掌握するイドリブの市場に対する空爆により、子ども5名を含む少なくとも21名が殺害されたことを受け、トルコ政府は、病院やモスク、市場、難民キャンプに対する攻撃は国際法違反であり、戦争犯罪であると強く非難した。シリア人権監視団によれば、誰が空爆を実行したかは不明とのこと。(6月14日付HDN紙1面)

社会

●ラマザン・バイラムの休暇が9日間に

9日、閣議の決定により、今年のラマザン・バイラムが9日間となった。ユルドゥルム首相は、公的機関等において、7月4日(月)午後と7月8日(金)終日を行行政の休日とする閣議書に署名した。この決定により、週末と併せてバイラムの合計は9日間に延長された。

(6月9日付Haber7インターネット版他)

●12月開通予定のユーラシア・トンネル、通行料は5ドル+税に

(1)アルスラン運輸通信大臣は、ヨーロッパとアジアを繋ぐユーラシア・トンネルを視察し、トンネルの建設は約80%完了しており、今年12月に開通予定であると述べた。一日12万台、年間4000万台の利用が期待されており、通行料は5ドル+税となる予定。アルスラン大臣は、トンネル内の2カ所に耐震設備が設置されており、イスタンブールで発生する可能性がある震度7.5を超える地震に対しても耐震性があると語った。(6月10日付H紙10面他)

(2)ユルドゥルム首相は、ボスポラス海峡を横断する自動車用のユーラシアトンネルが12月20日に開通予定であると発表。(6月13日付DAILY SABAH紙インターネット版)

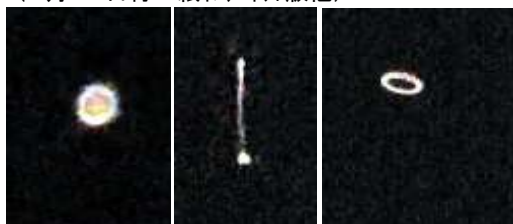


(写真は6月10日付H紙インターネット版から)

●ボドルム、UFO出現で騒然

ボドルムのチフトゥリッキ地区の住人達は、断食開始前(夜明け前)の食事(サフル)中に、大空で光りを放つ物体を目撃したと証言した。光を放つ物体は、およそ20分間の間、移動と停止を繰り返し、色を変えて上空に滞在した。レストラン経営者であるネジア氏はUFOであると確信し、光る物体をカメラに収めた。

(6月10日付M紙インターネット版他)



(写真は6月10日付M紙インターネット版から)

●第三大橋に接続する56の高架橋工事、完了

ユルドゥルム首相は、8月26日に第三大橋が開通することを発表したが、一方で、第三大橋に接続する116kmに亘る国道の建設が急ピッチで進んでいる。既にヨーロッパ側に設置される全56の高架橋は完成。現在、アジア側の8の高架橋の建設が続いている。一方、第三大橋と北マルマラ国道のプロジェクトに含まれる2つのトンネルの内、リヴァトンネルの建設も完成に近づいている。

(6月13日付HT紙24面他)



(写真は6月12日付TAKVIMインターネット版から)

●国内の登録車両の総数が2000万台を突破

トルコ統計協会(TÜİK)によると、2016年4月時点の自動車及び二輪車の登録車数の合計は2035万893台。この内、53.2%が乗用車、16.3%が小型トラック、14.5%が二輪車、8.5%がトラクター、4%がトラック、2.2%がミニバス、1.1%がバスという内訳となった。この内4月の新規登録車両数は、前年同月比9.7%減少、前月比4.9%増の10万6986台となり、その内69.7%にあたる6万4570台が乗用車となった。内訳は以下のとおり。

(6月13日付Sabah紙インターネット版他)

4月新規登録車両の内訳	
種類	割合
LPG車	40%
ディーゼル車	32.3%
ガソリン車	27.3%
その他	0.4%

4月新規登録乗用車の内訳	
メーカー	割合
Renault	18.1%
Volkswagen	12.1%
Hyundai	6.6%
Fiat	6.4%
Opel	6.3%
Ford	6.2%
Toyota	5.5%
Dacia	5.5%
Mercedes-Benz	4.0%
Skoda	3.8%
その他	25.4%

●6月15日より、イスタンブール市内で54日間かけて道路工事実施へ

イスタンブール県庁の発表によると、6月15日より8月8日にかけてイスタンブールの一部の区間で道路工事が実施される。工事区間は、アタテュルク空港チョバンシェシメ交差点、バスン・エクスプレス道、マフムットベイ西交差点とカヴァジュック交差点間の国道等で、夜10時から朝6時にかけて実施される予定。

(6月14日付C紙11面他)

●チャムルジャ・モスクがラマザン中に市民に開放予定

トルコ最大規模となる建設中のチャムルジャ・モスクが完成に近づく中、断食月27日目の夜(「ライラトゥルカドル」(力の夜))として神聖視されている7月1日のイフタル明け礼拝で市民に開放される予定。およそ1万人の来訪者が同モスクを訪れるとされており、ウスキュダルで一般開放される断食明けの食事(イフタル)が振る舞われた後、モスクで礼拝が行われる予定。

(6月13日付Daily Sabahインターネット版他)



(写真は6月13日付Daily Sabahインターネット版から)

●129カ国の内、トルコは肥満率で25位

オランダに拠点を置く栄養調査財団(Access to Nutrition Foundation)が発表した2016年度グローバル栄養インデックスによると、世界で最も肥満率が高い国は、パラオ・ナウル・サモア・トンガ・マーシャル諸島となり、世界129カ国の内トルコは25位にランクイン。

(6月15日付HT紙22面他)

●トルコにおける公務員の40%は女性

各県の発表によると、トルコ国内の251万7000人の公務員のうち、およそ40%にあたる101万5000人が女性職員。更に1万5899人の裁判官及び検察官の内4011人、12万9359人の教師の内5万4185人が女性で構成されており、185大学の内29の大学で女性の学長が就任している。

(6月15日付HT紙22面他)

●ラマザン・バイラム中のエーゲ海側のホテルの予約率が80%を超える

公的機関におけるラマザン・バイラムの祝日が9日間に延長されたことに伴い、

エーゲ海側における観光地で予約が急増中。アイヴァルック、オレン、アクチャイ、ギュレ、アルトゥノルックなどのエーゲ海北部のエドゥレミット湾周辺のホテルでは、予約率が80%を超えており、今後100%に達することが予測されている。(6月15日付HT紙10面他)

●ボスポラス海峡で月光クルーズ

今年も市営フェリーで夏期限定の月光ボスポラスクルーズが開催される。昨年と異なり、今年はクルーズ中の音楽や食事の提供は行われぬ。船は夕方17時半頃にボスタンジ埠頭から出発し、カドゥキョイ、エミノニュ、ウスキ

ュダル、ベシクタシュ、ルメリカヴァウ埠頭の順番に寄港し、アナドルカヴァウで2時間滞在した後、往路と同じルートでボスタンジ埠頭に戻る。6時間のクルーズは9月17日まで、土曜日のみ催行される予定。料金は一人あたり20リラ。

(6月16日付HT紙27面他)

注：本文中の略語の正式名称は以下の通りです。

略語	正式名称	略語	正式名称
AFAD	首相府緊急災害事態対応総局	ÖSB	PKKの防衛隊
AKP	公正発展党（現与党）	OIB	首相府民営化管理庁
BDDK	銀行監督庁	PKK	クルディスタン労働党
BDP	平和民主主義党（クルド政党）	PYD	シリア民主主義連合党
BOT	建設・運営・譲渡方式	RP	福祉党
CHP	共和人民党（最大野党）	RTÜK	ラジオ・テレビ高等機構
DEP	民主党	SNC	シリア国民評議会
DHKP/C	革命人民解放党/戦線	SPK	証券取引監査院
DHMI	国家航空局	SSM	防衛産業庁
DISK	先進労働組合連合	TBB	トルコ弁護士協会／トルコ銀行協会
DTK	民主主義社会評議会	TCDD	トルコ国鉄
DTP	民主社会党	TDHB	トルコ歯科医師会
DYP	正道党	TESK	トルコ商工業連合
EDAM	経済外交政策センター	THY	ターキッシュ・エアラインズ
EPDK	エネルギー市場監督庁	TİKKO	トルコ労働者・農民解放軍
HDP	人民民主党（クルド政党）	TMMOB	トルコ・エンジニア・建築会議連盟
HSYK	裁判官・検事高等委員会	TOKİ	トルコ集合住宅開発局
İDO	イスタンブール海上フェリー会社	TOMA	放水装甲車
İHH	人権・自由・人道支援団体	TPAO	トルコ石油公社
İKSV	イスタンブール文化芸術財団	TTB	トルコ医師会
İSO	イスタンブール産業会議所	TÜBİTAK	トルコ科学技術研究機構
İşİD	イラク・レバントのイスラム国（アルカイダ系）	TÜİK	トルコ統計庁
İTO	イスタンブール商工会議所	TÜPRAS	トルコ石油精製会社
KCK	クルディスタン共同体同盟（PKK系）	TÜSİAD	トルコ産業・実業家協会
KESK	公務員労働組合連合	TÜVID	トルコ投資家関係協会
KRG	北イラク政府	YÖK	トルコ高等教育評議会
MHP	民族主義者行動党（野党）	YSK	選挙高等委員会
MİT	国家諜報機関		

注：本文中のニュースソースの略称は以下の通りです。

トルコ語新聞	英字新聞	通信社
Akşam	A Economist	EC Anadolu News Agency AA
Cumhuriyet	C International New York Times	INYT Agence France Presse AFP
Haberturk	HT Hürriyet Daily News	HDN Cihan News Agency CA
Hürriyet	H Today's Zaman	TZ Doğan News Agency DA
Milliyet	M	Ihlas News Agency IA
Posta	P	Interpress IP
Radikal	R	
Sabah	S	
Taraf	T	
Vatan	V	
Zaman	Z	

在イスタンブール日本国総領事館

電話：0212-317-4600、FAX：0212-317-4604、E-Mail: istanbulweekly@it.mofa.go.jp

WEB: http://www.istanbul.tr.emb-japan.go.jp/index_j.html

Facebook: <http://www.facebook.com/Japonya.Istanbul.Baskonsoloslugu>

- トルコに90日以上滞在される方は総領事館に在留届を提出願います。
- 新たに配信希望される方、あるいは今後の配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

istanbulweekly@it.mofa.go.jp

年	窃盗		詐欺		ぼったくりバー		高額絨毯購入(相談)	
	今週	通算	今週	通算	今週	通算	今週	通算
2015年		8件		6件		20件		9件
2016年	0件	3件	0件	2件	0件	12件	0件	1件

★当館 HP 更新のお知らせ★

- イスタンブール工業会議所主催「JAPAN COUNTRY DAY」(6/13) **NEW**
- 江原しづえ総領事夫人による日土婦人友好文化協会イスタンブール支部作品発表会訪問 (6/6) **NEW**
- 熊本地震への義援金・救済金について (5/10) **NEW**
- 治安速報：イスタンブール (06/07)
- 第24回参議院議員通常選挙に伴う在外投票の実施について (06/06) **NEW**